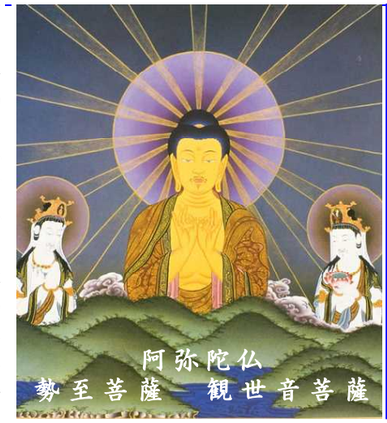
ほとけの混和会だより

平成二十五年五月
東光院
仏の混和会
第96号

平成二十五年度は、「共に生きる仏の家族、更に共に仏と成る」と定め、努めて参りたいと存じます。



私は死にます。

今回は、何かお体の具合でも悪いのですか？と問われそうなタイトルを掲げてしまいましたが、決して体が不調と言う訳ではありません。

私は、この六月で満六十と成り、「死」と言う事を少しずつ意識するように成ってきただけの事なのです。

「死」、これはだれも避けることが出来ません。生有るものは百％、みんな死を迎えます。「死」と言う、この避けがたい事実をどのように受け止めたら良いのか？などと、そろそろ己の死を迎える心構えを築き上げて行こうと思って居るのです。

己の命が無にならぬよう、残りの人生を有意義に如何に生きたら良いかと言う事が、私の大きな課題と成って居るのです。

死というと、苦しみと恐怖の極地、不吉なものと考えられており、出来れば避けて通りたいし、考えたくも無いと無意識のうちに延命を願ってしまいます。

生老病死は、四苦では無い

釈尊は「四苦八苦」と言って、「死は苦しみである」と説かれました。と言うのが定説になっております。

しかし、ここで使われている「苦」とは、実はインドの経典の中の「ドゥフカ」と言う言葉を漢字に翻訳された言葉で、本来の意味は「思うがままにならない」と言うことなのです。と仏教学者の「ひろさちや」さんが言っておられました。

すると釈尊の真意は「生老病死」は苦しみでは無く「己の思うようにはなりません」と言う事に成ります。

私達は「死」を己の思うようにしようとして苦しみをつのらせ、延命を願う思いが逆に己の苦しみを招いているように思われます。

生老病死は、御仏にお任せ

短命で良し、長寿で良し、全て仏様にお任せして、お導きと受け止める御心が抱ければ、安心して死を迎える心境がひらけて参ります。

己の死に対する不安と恐怖におののきながら生きる生き方を克服して、死に向かって、全力で精一杯生きる生き方を会得出来たら、どんなにすばらしい事でしょう。

しかし未熟な私の心境は、未だそこまで至れず、そのように勤めて行こうと言う段階でしか有りません。坊主にして誠に恥ずかしい限りで御座います。

命が継承されて今がある

そこで、どのように己の死に向かって歩んで行ったら良いのか、又己の心をどのように定めて行ったら良いのか、などと色々模索しながら、人類の生い立ちを振り返ってみると、私達は恐竜の時代以前から、様々な死、その命が脈脈と伝えられて今がある事が見えて参ります。

人の心も、日本人、アメリカ人、中国人、…それぞれに異なった環境や歴史によって、様々な伝統や文化、又理性や道徳心が継承されて来ました。

このように、私達の抱く思いや行動は、無意識のうちに内に継承されて行く事が理解されます。

よって私に与えられた、死に向かって歩む使命は、御仏の心である慈愛心を少しでも会得して、次世代に継承する事のように思われます。

命を伝える喜びを見いだす

この御仏の心である慈愛心はとても、私一代で完成出来るものとは思っておりません。どこまで会得出来るか未知数です。しかし歩む方向性が定まっていれば、人々の幸を喜びとして迷うことはありません。その後ろ姿は仏心の種として、人々の心の奥底に継承されて何時か大きな大輪の花を咲かせるものと思われます。

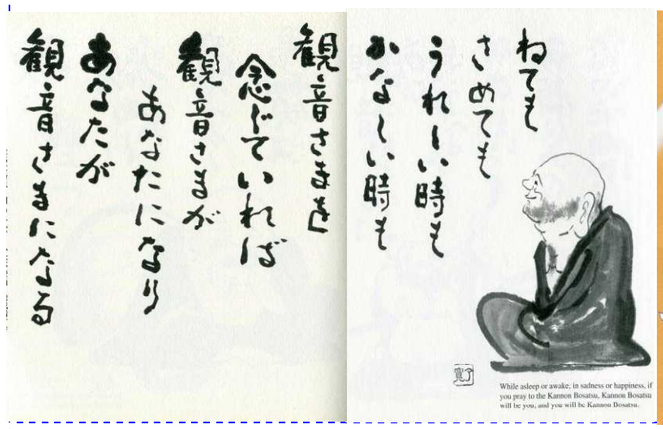
浄仏国土の構築

私達はそれぞれに幸を求め人生を歩みます。しかし己の幸だけを願っていては、争いの絶えない孤独社会と成ってしまいます。少しでも己を忘れて他の幸を願う「仏心」が抱ければ、そこがお浄土と成ります。

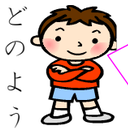
最澄様も**「忘己利他」**己を忘れて他の幸を願いなさいと言っておられます。

共に仏心「慈愛心」を継承し、この世も来世も、共に極楽浄土と成るように精進致したいと存じます。

合掌



観世音菩薩



ねえねえお坊さん、観音様ってどのような仏様なの？どのような御利益を与えてくれるの？

そうじゃなー、先ず、仏教のあり方から説明するとね。キリスト教やイスラム教は、神の教えを学んで、己自身が神に成る事はありませんが、仏教の教えは、仏の教え学んで、己自身が仏に成る事が出来る教えなんじゃよ。

仏とはブッダとも言い覚者とか、目覚めた人と言う意味が有って、完成された人間を意味しているのじゃ。

その完成された人間、仏に成る志しを抱き慈愛心を得た人を菩薩と言うのじゃ。

僕達も仏道を志すなら菩薩になれるのじゃよ。菩薩様は特別な存在では無く極身近な存在でもあるのじゃよ。

そこで観音様の存在を説明するとね、正式な呼び名は観世音菩薩と言って菩薩様の一人なんじゃ。

この観音様はね普段は極楽浄土の阿弥陀様の元におられるのじゃが、私達の苦悩を感じ観て、様々な姿形に変化してこの世に現れ私達を救済して下さると言われているのじゃよ。

ちょっと、君には難しい表現だから簡単に説明するね。

観音様は、様々な苦悩や悲しみを経験して大いなる慈愛心を抱き、人の痛みの解る菩薩様なんじゃ。

己の苦悩や痛みを理解してくれると、とても嬉しく大きな安心が抱けるよね。

それは隣のおじさんや、おばさんだったり、お友達だったり、或いは犬や猫だったりと様々じゃが、その人が居てくれるお陰で大きな安心が抱けるよね、その人が極楽浄土から来た、観音様なんじゃよ。だから「何時もそばに居てくれてありがとう」と感謝の念を抱いてごらん、君はとても幸せに成れるよ。

そして、君も観音様のように苦しみや悲しみ、様々な経験が生かされるように、人々を労る慈愛心に変えて、共に生きる環境を築いて行こうね。

共生（ともい）きの集い、ジャガイモ掘りのご案内

日時　**25年6月2日**（日曜）　雨天の時 **6月9日**（日曜）
午前9時～11時頃までに、東光院にご参集下さい。

本年度は、腐敗を避ける為、早生品種の種芋に替えました。
よって、収穫時期が早めと成っております。
参加希望者は、別紙参照の上、東光院まで連絡下さい。

電話０４７６－４６－２４７１　FAX ０４７６－４６－２５４５